

目標

- ・社会環境や働き方が変化する中で、子ども・若者一人ひとりが、勤労観や働くことの意味、適切な人間関係づくりについて学び、それぞれの人生を設計しながら、それを実現する力を育成する
- ・県内産業界における人材確保の重要性が高まっている中で、地元企業の素晴らしさや、群馬で暮らしながら世界を相手に活躍できる可能性を知ってもらったり、職場環境を整えたりすることで、若者の県内定着を進める

現状

- ・人口減少社会の到来により労働力人口が減少
 <県内労働力人口（国勢調査結果）>
 1,031千人(H22)→1,009千人(H27)
 →2030年には、更に約10万人減少する可能性もある（労働政策研究・研修機構による推計）
- ・産業・経済構造の変化や雇用の多様化・流動化が進み、生徒の進路（進学・就職）をめぐる環境は大きく変化
 <県内出身大学生等のUターン就職率>
 30%（H26年度）→33%（H28年度）

【趣旨・ねらい】

○社会の中で自分の役割を果たし、他者と協力しながら自分らしい生き方ができるよう、進んで人と関わる力、課題に粘り強く取り組む力、学ぶことや働くことの意味や役割への理解など、将来必要となる資質・能力を育てる

【取組の方向性】

○特別活動を要として教科横断的に、家庭・地域・企業等と連携して、キャリア教育を推進する

【現在の取組の例】

<小学校>

- 地域の商店見学やそこで働く人へのインタビュー（生活科）
- 地元農家の方の講話、ものづくりの楽しさを学ぶ工場見学（社会科）
- 地域の歴史や文化を学ぶ地域学習（総合的な学習の時間）

<中学校>

- 幼稚園や保育園等での保育実習（技術・家庭科）
- 地域の事業所等での職場体験学習（総合的な学習の時間）
- 地元企業の方によるマナーアップ講座（学級活動）

<県教育委員会>

- キャリア教育指定地域の成果をまとめたガイドブック「ぐんまのキャリア教育」の活用推進
- 実践発表や有識者の講演を行うキャリア教育研究大会の実施

課題

・各教科等の内容に関連して、地域の人的、物的資源を確保すること。

→学校と地域の人材や事業所、企業等との連携強化

【趣旨・ねらい】

○望ましい勤労観、職業観を育み、自己の在り方や生き方を考え、社会的自立に向けて主体的に自己の進路選択に取り組むとともに、様々な人々とコミュニケーションを図り、協力して物事に取り組む力を育むために、産業界等と連携してキャリア教育を推進する。

<専門高校>

- ・専門的な知識・技術の定着を図るとともに、多様な課題に対応できる課題解決能力を育成するため、地域や産業界との連携の下、産業現場等における長期間のインターンシップ等を重視したキャリア教育を一層充実させる。

<普通高校>

- ・生徒に自らの職業適性や将来について考えさせ、主体的に職業を選択できる能力や高い職業意識を育成するため、インターンシップや社会人講師による講演等を重視したキャリア教育を一層充実させる。

①小・中学校

②高等学校

② 高等学校

【取組の例】

○キャリア教育サポート事業

- ・キャリアアドバイザー活用事業において、各学校で講師を招き、生徒が主体的に進路選択や将来設計を行えるよう、講演等を行っている。

例:「人間関係・チームビルディング」セミナー、「社会人基礎力について」

○OGワークチャレンジ・高校生インターンシップ推進

〈専門高校〉

- ・1年で短期インターンシップ、2年で長期インターンシップ、3年でデュアルシステム(学校での学習と産業現場等での実習の並行)と、3年間に渡り系統的なインターンシップを行うことで、実践的・体験的活動を通して将来のスペシャリストとして必要な専門的な知識・技術を習得する。(勢多農林高校)

〈普通高校〉

- ・同窓生と連携したインターンシップの中で、学校の授業では学ぶことのできない体験や同窓生との対話を通して、生徒の視野を広げ、学習意欲の向上につなげている。(高崎高校)
- ・地元企業や地域の公共機関等との連携を強化して、2年生全員が短期インターンシップに参加することで、実際の職業を知るとともに、自らのキャリアについて主体的に考えている。(玉村高校)

課題

- ・**県内企業でのインターンシップ等を通して、世界を相手にした仕事や、先端技術に触れる機会を増やすこと**
- 専門高校では、既習の知識・技術を活用できるインターンシップの内容の充実
- 普通高校では、連携先の拡充、インターンシップを実施する意義の再確認及び計画的な時間確保

③ 高校卒業後

【趣旨・ねらい】

- 群馬で働く意欲を持っている県内外の大学生等が県内で就職できるよう、ぐんま暮らし支援センターなどの県外施設も活用しながら、強力に支援する

【取組の例】

- 首都圏を中心に127大学等と連携し、学生に県内就職情報を発信しているほか、県内企業訪問バスツアー、県内企業インターンシップ、学生と企業との交流会等を実施し、学生と県内企業とのマッチング支援を行っている。また、県内高校3年生及び保護者に連絡先を登録いただき、進学後に県内就職情報を提供する「Gターン通信」を実施し、情報発信の強化を図っている。

課題

- ・**学生・保護者に県内就職情報を届きやすくすること**
- ・**学生・保護者の目を県内企業に向けること**
- **進学前から、学びたい分野と県内企業の繋がりを認識させることが重要**

今後の方向性

県内企業とより一層の協力・連携を図り、各取組を強化していく

- 児童生徒の発達段階を意識したキャリアの発達を促せるよう、各地域、各学校の実態に応じた年間指導計画を縦のつながりと横のつながりを見通して作成・見直しをしていく。(義務教育課)
- 学校と地元企業が育てたい生徒像を共有し、これまで以上に連携を深めながら、インターンシップの在り方の見直し・検討を行い、高校生が地元企業を理解する機会を更に増やしていく。(高校教育課)
- 学生・保護者への情報発信の更なる強化とともに、大学と企業及び学生と企業とのマッチング支援もより強化していく(労働政策課)。